

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402184		
法人名	医療法人杏林堂		
事業所名	グループホーム明星(有明ユニット)		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-1		
自己評価作成日	令和2年9月25日	外部評価結果確定日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271402184-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和2年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の明島整形外科医院併設で医療面、緊急時の対応も万全です。
各居室に温便座付トイレ、洗面台、クローゼット付。バリアフリー設計です。
誕生会は、入所者様の誕生日当日に行い入所者・職員でお祝いをいたします。
月末に施設便りはもちろん、個別に生活状況報告書を送付しご家族へ状況報告をおこなっています。
地域のイベント、ドライブなど外出支援を積極的に行っています。
看護師免許を取得した職員が配属されている。
介護福祉士の資格を持っている職員が過半数を超えています。
理学療法士が月1回訪問し入居者との面談を行い生活向上を図っています。
災害派遣チームに登録を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体としており、医療と介護の両面から入居者を支援している。定期的に訪問する理学療法士は通所リハビリでの様子とホームでの日常生活を見ることで、より入居者にあったケアプランのアドバイスを行っている。また相互に行き来する介護施設職員から入居者の様子について情報共有ができたりと、グループ全体のサポートによる支援は、入居者・家族からの信頼へつながっている。入居者からの希望を汲み取り、料理、テーブル拭き、洗濯物たたみなど職員と一緒に、外出場面では入居者とともに職員もリフレッシュしているという姿勢は、良好な人間関係に基づく家庭的な環境での日常生活の支援という、グループホーム本来の目的に沿った運営がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心も元気、身体も元気、明るく楽しく暮らしたい」を理念に掲げ、新入社員へは入社時に伝えている。理念の実践に当り毎月具体的な目標を全体会議で決めると共に評価もしながら実践に繋げている。	毎月全体会議で具体的な目標を決め、理念の実践に努めている。理念の具現化により、職員への理念の意識づけおよび振り返りもきちんとできている。今年は、新型コロナウイルス対応に関するものが多くなった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りのイベントへの参加や近隣への散歩、こども園への慰問訪問、文化展への参加を通し日常的に交流に努めていたがコロナウイルス感染拡大後は、中止等相次ぎ、なかなか交流出来ていないのが現実である。	今年は新型コロナウイルスの影響により中止が相次いでいるが、従来は地域の祭りや文化展への作品展示など地域との交流が行われている。こども園への慰問訪問、隣接する短期入所施設との日常的な行き来があり、互いのイベントに招待するなど積極的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや地域のこども園の慰問・訪問で理解を深めていたが、コロナウイルス感染拡大後は状況を見て実施や中止となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の代表、市の職員代表、入所者家族代表、可能な限り入居者、職員2名以上が参加し日々の活動報告や入所者の近況報告、状態等を報告し、参加者より地域の情報や市の取り組み、家族、入居者から意見や助言を頂きサービス向上に努めている。しかし、コロナウイルス感染拡大後は、書面にて開催する事も増えた。	規定通り2ヶ月に1回定期的に会議を開催している。新型コロナウイルスの影響により、書面による開催を余儀なくされたが、行事報告、入居者の利用状況など日々の活動報告により、事業所の運営を地域に開かれたものになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーで市の職員の代表の方と情報交換を行っている。市の職員と運営推進会議を通じ実情や取組みを伝え双方の協力関係を構築している。	市の職員代表の方は運営推進会議に参加しており、事業所の実情と取り組みを理解してもらっている。前管理者が地域のグループホーム連絡協議会の事務局を長くされていたこともあり、担当職員と相互に情報提供するなど、良好な関係性が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修にて身体拘束ゼロの手引きや事例集を用いて職員全員で情報を共有している。運営推進会議時に身体的拘束適正化委員会の実施に伴い毎月の全体会議時に事例があった際には情報共有し日常の振り返りを行っている。又、夜間は防犯上施錠しているがそれ以外は網戸にする等開放的にしている。	事業所の全体会議で身体拘束について職場内研修を実施しており、職員の理解を深めている。日々の支援ではセンサーやマット等を使用しないケアを実施しており、会議や日々の申し送りで職員間のケアの統一を図っている。家族には転倒リスクの事前説明を行い、理解を得た上で、支援の際にクッションマットを活用するなど怪我を最小限にする配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修にて身体拘束ゼロの手引きや事例集を用いて職員全体で情報を共有している。職員同士でケアの方法や言葉使い等気付いた時に話し合って自分自身を振り返る様にしている。又、入浴時や更衣時に全身状態を観察し異常がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度の研修会の開催が少なく受講機会があまりないが、研修会が開催されると受講し、全体会議で伝達研修を行い、全職員に周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り入所前に見学して頂くか、電話などで運営方針や理念、契約内容など伝え理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族へ声掛けを行い、意見や要望を聞いたり施設での状況を報告している。全体会議で職員と意見交換を行い、運営推進会議で市の職員や地域の代表へ報告や意見を聞き運営に反映している。また、玄関には意見箱を設置し個別で生活状況報告書を発送している。	意見箱を設置し、寄せられた意見は改善につなげている。家族の面会時に積極的に声掛けをし、入居者・家族の意向をくみ取るようにしている。毎月入居者ごとの「生活状況報告書」を送付し、入居者の体調の変化や行事の参加の様子などきめ細かく伝え、入居者の情報共有により、意見等を積極的に聴く努力や場面づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り、職員個別から意見や提案を考慮して取り組んでいるが不満や苦情等言い難いところもあるので把握していない部分もある。敬老会などイベント実行時には実行委員を決め職員主体で企画し実行している	管理者は、職員の身近な存在として意見を言えるよう機会を作るなど、働きやすい職場づくりに努めている。職員間の距離感も近く、相談しやすい信頼関係による支援の充実により、入居者からの感謝のことは等につながっている。やりがいを持つことでサービスの質の向上・確保の好循環となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス設定により資格に対し資格手当をつけ、受験や研修会時等には勤務調整を行い優先的に休みを与えるなど職場の環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には毎日職員が指導に付き約3ヶ月掛けて内容把握に努めている。外部からの実習生の受け入れを行い指導に当たる職員のスキル向上をさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	餅つきなどのイベントや個人的の交流など同法人の施設との職員・入所者の交流を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族に見学して頂いて事前の調査で情報収集する事で本人・家族の要望を傾聴し安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族からの不安や要望をしっかりと伺い入所後も日常の様子や変化を報告し、意向や要望があれば対応し、信頼関係を作る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所者の状況を見ながら、家族と話し合い、今何が必要なのかを探り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴を把握し、人生の先輩から学ぶという姿勢で接している。利用者の話や訴えを傾聴し教え合ったり、励まし合ったりしながら支え合い、生活を共にし、信頼関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を共有し家族の意向を聴きながら良好な関係を築けるよう心掛けている。職員が全て支援するのではなく、家族として本人の為に出来る事は協力して頂き、共に支える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人とのつながりを大切にし、友人や知人、どなたでも来やすい雰囲気作りを心掛けているが、現在はコロナウイルス感染対策として面会制限などを行っており、家族に協力して頂きながら今までの馴染みの人や場所との関係が途切れない様にしている。	新型コロナウイルス感染対策としてやむを得ず面会制限を行ったが、窓越しの面会ができるようするなど、関係が途切れないよう工夫されている。毎月発行される「あかるいほし便り」には、入居者の多くの写真を掲載し、家族に生活の様子を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話を聴いたり相談に乗ったり、普段の活動を通じて利用者同士の関係を把握し職員間で情報共有を行っている。食事やドライブ時の座席なども利用者同士の関係性を把握し必要時は職員が間に入り良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院に移られた時は家族と街で会った時等状態を聞いている。又、ケアマネにも近況状況を聞き申し送り職員へ報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や表情、行動の中から本人の思いを把握し、職員間で情報を共有している。状態により困難な場合は家族や関係事業所より情報を頂き支援に活かしている。	女性の入居者は特に日々の家事をしたいという思いが強く、入居者から積極的に職員に声をかけ、コップ洗い、洗濯物畳み、テーブル拭きなどを行っている。職員は日々の入居者の様子から思いを汲み取り、入居者のできる範囲を検討しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子や、本人の出来る事、出来ない事、言動などを介護日誌に残し、本人の暮らしの現状を把握する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や希望を聴き、職員間で意見を出し合い月に1回理学療法士訪問により生活状況に考慮したケアプランを作成している。変化があった場合には、全体会議でケアプランの見直しや定期的にモニタリングを実施し検討しながらケアプランを作成している。	月に1度、理学療法士よりケアプランへの助言を受け、その上で3ヶ月毎にモニタリングを実施している。また、職員からの意見のもと支援を検討し、入所時に歩行器利用の入居者が杖利用を経て現在は杖無しで歩行するまで改善した事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは個別記録し、プランが実践できているかマーカーで線引きをしている。気づきや情報については申し送りやモニタリングメモに記載し職員間で介護の実践や介護計画の見直しなど情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在コロナウイルスの影響の為、外出・外泊等は自粛をしているが、以前は本人・家族の状況や要望により、外出・外泊を臨機応変に対応。利用者の意見を尊重し買い物の支援など柔軟に対応を行い、個別の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やテレビ、新聞やホームページを活用し地域資源を把握している。イベントなど安全に楽しめる様に情報を収集し計画を立てて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族からの要望を大切に、かかりつけ医への受診支援を行っている。医療機関との連携と家族へ生活状況報告書を活用しながら報告を都度行っている。	病院を母体とした法人であるため、同法人の明島整形外科医院を主な協力医療機関としている。しかし入居時のかかりつけ医の選択の際は法人の医療機関を強制せず、今までのかかりつけ医を継続することができる。受診支援の家族への結果報告は、毎月送付している「生活状況報告書」にて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で入居者の状態観察に努め、状態変化やバイタルの異常、気付きは看護師に報告し相談、助言を頂き適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に見舞いに出掛けていたが、コロナ対策として面会制限が行われており、回復状況等を医師や看護師と情報交換を行っている。家族とも情報を共有するようにし、相談や退院についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算や看取り加算を算定している。入所前に重度化や終末期に対するケアの方法の説明と同意書を作成し終末期や重度化に対し方針の共有に取り組んでいるが、現状家族の要望を尊重している。	事業所として看取り対応をしており、これまで10件弱の看取り対応を行っている。まず入所時に看取りについて指針を記した書類をもとに入居者と家族に説明して同意書を作成し、状態の変化があった際に再度説明を行い意思確認をしている。現在は看取り対応の対象となる入居者はいないとのこと。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル本を設置している。同一法人の医院の看護師へ相談や連携を密に取るようにしている。又、夜間は医師へ状態を報告し指示を仰ぐ様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回以上の避難訓練を消防署立会いで行い、(うち1回は夜間想定)訓練終了後は消防訓練記録を作成し全体会議で反省や見直しを行っている。又、防災等の研修があれば参加し、防災に対する知識を高めている。日々の気象情報等の把握に努め、自然災害についても避難計画書を作成し消防署署員に相談をしている。	火災避難訓練は夜間と日中想定各1回ずつ、年2回実施している。事業所の立地条件として水害や土砂崩れの恐れが少ないので、主に火災や地震を想定して対策をしている。備品は入居者の3日分の食料等を準備しており、管理については備品チェックリストを作成し半年に1回、確認を行っている。	自然災害対応マニュアルが作成されているのを書類で確認することができた。しかし、火災に関しては消防計画や避難訓練報告書等の整備はされているが、マニュアルは作成されていないようなので、職員の共通理解を促すためにマニュアルを作成し、周知することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思決定の場面では、入居者の意思が確認できない場合でも分かりやすい言葉などで説明して選択させている。排泄介助や入浴介助等では肌が露出する場面ではタオルをかけるなど入所者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を取っている。	月に1度の職員全員が参加する全体会議にて、内部研修として虐待の事例を周知するほか、年2回の身体拘束研修を実施している。排泄支援の場面では失禁している入居者に対して「ズボンが汚れているので着替えましょう」等、直接的でない言葉で声をかけ、居室で支援し、入居者の尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状況に合わせ表情や態度からも思いやりや希望をくみ取れる様に分かり易く言葉掛けをする等、自己決定し易い様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重するように心掛けている。時間が掛かっても本人のペースに合わせ、ゆっくりと過ごして頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意思を尊重し、着こなしを援助している。又、馴染みの美容院への送迎等も行っている。行事や外出時にお洒落を楽しめる様に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けなど入居者と職員が一緒に行い、入居者が持ち易い食器、食事量に合わせた食器を用意したり、ミキサー、トロミ付け、糖尿病食など出来る限り対応している。また、季節感のある食事も提供できる様努めている。	食事は居間の横の台所で調理専門職員が調理しており、準備の様子を身近に感じることができる。入居者の能力に応じて玉ねぎ剥きや包丁を使った作業も一緒に行っている。職員の発案で毎年正月に新しい箸に交換する独自の習慣があり、毎年事業所からのクリスマスプレゼントで各入居者に箸を贈っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリー等、偏りのない食事提供に努め記録を取る事により皆で共有している。また、個人の疾患、咀嚼、嚥下能力に応じた食事・水分摂取の確保に努めている。また、熱中症対策として、経口補水液も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後には、個々の能力に合わせた口腔ケアや、定期的な義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔ケアの際や利用者の訴えに応じ口腔内や義歯の状態を観察し、適宜歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレへの誘導を行っている。又、自立に向けて出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。	排泄支援が必要な入居者6名の排泄チェック表を作成し、1日の記録から排泄パターンを把握し声掛けや誘導等の支援に反映させている。その他、居室のトイレ内にパットやリハビリパンツを置き自身で交換する入居者もいる。また、入所時にリハビリパンツを利用していた入居者が布パンツへ変更した改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便管理を行っている。食物繊維の多い食材や牛乳などの乳製品を提供し、便秘予防と自然排便につながる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全の為、日中帯に入浴して頂いている。順番や入浴出来ない時の清拭など希望に沿った入浴が出来る様支援し、一人一人個別に入浴して頂いており、入浴時間等は目安として一人30分程度としているが、入居者一人一人の好みに応じゆっくりとくつろいで頂けるように配慮し、原則的に同性職員が介助を行っている。又、入浴剤を使用しながら入浴を楽しめる様に工夫している。	基本的には週3回入浴としているが希望に応じて毎日の入浴も対応する。身体の状態等により入浴が難しい入居者は医師の判断のもと清拭、ドライシャンプー、シャワー浴で対応している。また、月の上旬・中旬・下旬で計7日間入浴剤を利用し、入居者は入浴剤を選んだりして入浴の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯のリハビリ体操など活動を促し生活リズムを整えている。時節にあった温度調整に努め安心して休息したり安眠できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意している。薬剤情報を個々のファイルに綴じて、すぐに観覧できる様になっている。状態観察を行い、必要に応じて担当医へ相談し見直しを行っている。又、専門医を受診した際、薬の変更等があった場合、その都度担当医へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経験などを考慮してお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。週1回職員が入居者の要望を聞いて買い物の代行を行い、移動中は少し窓を開け3密を避けながら少人数での外出を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染拡大の為、外出を自粛しているが、以前は入所者全員が月に1回以上は外出出来る様に計画を立て、実行していた。希望される場所へ買い物へ出掛け、入所者の好きな物や必要な物を買われる。買い物へ行かれない方にはドライブ等へ出掛け気分転換が図れるよう配慮していた。コロナ禍ではあるが、時々は密にならない様にしながら、気分転換が図れるよう配慮している。	入居者全員を一覧にした「外出した人のチェック表」により外出状況を把握し、入居者全員がまんべんなく外出できるように配慮している。新型コロナウイルス感染対策として、外出の際は社用車でのドライブを主とし、人が少ない平日や場所を選び、少人数で外出している。また、車椅子の入居者の外出の際は、外出先に車椅子専用のトイレがあるか事前確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を持って頂く事になっているが、ほとんどの方が自己管理が出来ない為、家族と相談し欲しいものがある場合など、立て替え払いで対応している。職員との買い物時はレジを通して実際にお金を払って頂く等、経験して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やハガキなど要望があれば支援を行い、電話も希望に応じ、その都度やり取りが出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中庭に面した窓からは明るい日差しや、ホームの愛犬が遊ぶ様子を眺める事が出来、リビングや廊下に設けられたスペースでは利用者同士や職員と談話したり、思い思いに過ごせる様にしている。又、共用空間や各居室は、空調や音の配慮に心掛け、それぞれに落ち着いた環境作りを行っている。	居間は中庭に面した大きな窓があり日当たりがよく、また中庭で犬を2頭飼っており入居者は居間から眺めたり触れ合うこともでき、明るく家庭的な雰囲気となっている。季節に応じて飾り付けをしており、訪問調査時は入居者が飾り付けたクリスマスツリーが飾られていた。掃除は日勤者がチェック表をもとに気がけて定期的に掃除している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員間でも利用者同士の関係を把握し、気の合った利用者同士が気軽に話が出来様に席の配置を考慮している。また、テレビの前を広くし、集まり易い空間となる様にソファを配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や、入所者本人が慣れ親しんだ家具や火気を持ち込まない条件で仏壇、テレビ・冷蔵庫などの生活家電など持ち込みの規制もなく、心地よく過ごす事ができる様工夫している。	居室には入居者の馴染みの家具として仏壇と位牌を持ち込んでいたり、毎年の誕生日に職員が渡す手作りの色紙を飾っていたりして、居心地良く過ごせる雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を把握し、張り紙や声掛けで混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、安全に暮らせる様支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402184		
法人名	医療法人杏林堂		
事業所名	グループホーム明星(雲仙ユニット)		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-1		
自己評価作成日	令和2年9月25日	外部評価結果確定日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271402184-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和2年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の明島整形外科医院併設で医療面、緊急時の対応も万全です。 各居室に温便座付トイレ、洗面台、クローゼット付。バリアフリー設計です。 誕生会は、入所者様の誕生日当日に行い入所者・職員でお祝いをいたします。 月末に施設便りはもちろん、個別に生活状況報告書を送付しご家族へ状況報告をおこなっています。 地域のイベント、ドライブなど外出支援を積極的に行っています。 看護師免許を取得した職員が配属されている。 介護福祉士の資格を持っている職員が過半数を超えています。 理学療法士が月1回訪問し入居者との面談を行い生活向上を図っています。 災害派遣チームに登録を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心も元気、身体も元気、明るく楽しく暮らしたい」を理念に掲げ、新入社員へは入社時に伝えている。理念の実践に当り毎月具体的な目標を全体会議で決めると共に評価もしながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りのイベントへの参加や近隣への散歩、こども園への慰問訪問、文化展への参加を通し日常的に交流に努めていたがコロナウイルス感染拡大後は、中止等相次ぎ、なかなか交流出来ていないのが現実である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや地域のこども園の慰問・訪問で理解をふかめていたが、コロナウイルス感染拡大後は状況を見て実施や中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の代表、市の職員代表、入所者家族代表、可能な限り入居者、職員2名以上が参加し日々の活動報告や入所者の近況報告、状態等を報告し、参加者より地域の情報や市の取り組み、家族、入居者から意見や助言を頂きサービス向上に努めている。しかし、コロナウイルス感染拡大後は、書面にて開催する事も増えた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーで市の職員の代表の方と情報交換を行っている。市の職員と運営推進会議を通じ実情や取組みを伝え双方の協力関係を構築している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修にて身体拘束ゼロの手引きや事例集を用いて職員全員で情報を共有している。運営推進会議時に身体的拘束適正化委員会の実施に伴い毎月の全体会議時に事例があった際には情報共有し日常の振り返りを行っている。又、夜間は防犯上施錠しているがそれ以外は網戸にする等開放的にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修にて身体拘束ゼロの手引きや事例集を用いて職員全体で情報を共有している。職員同士でケアの方法や言葉使い等気付いた時に話し合って自分自身を振り返る様にしている。又、入浴時や更衣時に全身状態を観察し異常がないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度の研修会の開催が少なく受講機会があまりないが、研修会が開催されると受講し、全体会議で伝達研修を行い、全職員に周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り入所前に見学して頂くか、電話などで運営方針や理念、契約内容など伝え理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族へ声掛けを行い、意見や要望を聞いたり施設での状況を報告している。全体会議で職員と意見交換を行い、運営推進会議で市の職員や地域の代表へ報告や意見を聞き運営に反映している。また、玄関には意見箱を設置し個別で生活状況報告書を発送している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り、職員個別から意見や提案を考慮して取り組んでいるが不満や苦情等言い難いところもあるので把握していない部分もある。敬老会などイベント実行時には実行委員を決め職員主体で企画し実行している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス設定により資格に対し資格手当をつけ、受験や研修会時等には勤務調整を行い優先的に休みを与えるなど職場の環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には毎日職員が指導に付き約3ヶ月掛けて内容把握に努めている。外部からの実習生の受け入れを行い指導に当たる職員のスキル向上をさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	餅つきなどのイベントや個人的交流など同法人の施設との職員・入所者の交流を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族に見学して頂いて事前の調査で情報収集する事で本人・家族の要望を傾聴し安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族からの不安や要望をしっかりと伺い入所後も日常の様子や変化を報告し、意向や要望があれば対応し、信頼関係を作る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所者の状況を見ながら、家族と話し合い、今何が必要なのかを探り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴を把握し、人生の先輩から学ぶという姿勢で接している。利用者の話や訴えを傾聴し教え合ったり、励まし合ったりしながら支え合い、生活を共にし、信頼関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を共有し家族の意向を聴きながら良好な関係を築けるよう心掛けています。職員が全て支援するのではなく、家族として本人の為に出来る事は協力して頂き、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人とのつながりを大切にし、友人や知人、どなたでも来やすい雰囲気作りを心掛けていますが、現在はコロナウイルス感染対策として面会制限などを行っており、家族に協力して頂きながら今までの馴染みの人や場所との関係が途切れない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話を聴いたり相談に乗ったり、普段の活動を通じて利用者同士の関係を把握し職員間で情報共有を行っている。食事やドライブ時の座席なども利用者同士の関係性を把握し必要時は職員が間に入り良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院に移られた時は家族と街で会った時等状態を聞いている。又、ケアマネにも近況状況を聞き送りで職員へ報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や表情、行動の中から本人の思いを把握し、職員間で情報を共有している。状態により困難な場合は家族や関係事業所より情報を頂き支援に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子や、本人の出来る事、出来ない事、言動などを介護日誌に残し、本人の暮らしの現状を把握する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や希望を聴き、職員間で意見を出し合い月に1回理学療法士訪問により生活状況に考慮したケアプランを作成している。変化があった場合には、全体会議でケアプランの見直しや定期的にモニタリングを実施し検討しながらケアプランを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは個別記録し、プランが実践できているかマーカーで線引きをしている。気づきや情報については申し送りやモニタリングメモに記載し職員間で介護の実践や介護計画の見直しなど情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在コロナウイルスの影響の為、外出・外泊等は自粛をしているが、以前は本人・家族の状況や要望により、外出・外泊を臨機応変に対応。利用者の意見を尊重し買い物の支援など柔軟に対応を行い、個別の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やテレビ、新聞やホームページを活用し地域資源を把握している。イベントなど安全に楽しめる様に情報を収集し計画を立てて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族からの要望を大切に、かかりつけ医への受診支援を行っている。医療機関との連携と家族へ生活状況報告書を活用しながら報告を都度行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で入居者の状態観察に努め、状態変化やバイタルの異常、気付きは看護師に報告し相談、助言を頂き適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に見舞いに出掛けていたが、コロナ対策として面会制限が行われており、回復状況等を医師や看護師と情報交換を行っている。家族とも情報を共有するようにし、相談や退院についての話し合いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算や看取り加算を算定している。入所前に重度化や終末期に対するケアの方法の説明と同意書を作成し終末期や重度化に対し方針の共有に取り組んでいるが、現状家族の要望を尊重している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル本を設置している。同一法人の医院の看護師へ相談や連携を密に取るようにしている。又、夜間は医師へ状態を報告し指示を仰ぐ様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回以上の避難訓練を消防署立会いで行い、(うち1回は夜間想定)訓練終了後は消防訓練記録を作成し全体会議で反省や見直しを行っている。又、防災等の研修があれば参加し、防災に対する知識を高めている。日々の気象情報等の把握に努め、自然災害についても避難計画書を作成し消防署署員に相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思決定の場面では、入居者の意思が確認できない場合でも分かりやすい言葉などで説明して選択させている。排泄介助や入浴介助等では肌が露出する場面ではタオルをかけるなど入所者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を取っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状況に合わせ表情や態度から思いやりや希望をくみ取れる様に分かり易く言葉掛けをする等、自己決定し易い様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重するように心掛けている。時間が掛かって本人のペースに合わせ、ゆっくりと過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意思を尊重し、着こなしを援助している。又、馴染みの美容院への送迎等も行っている。行事や外出時にお洒落を楽しめる様に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けなど入居者と職員と一緒に、入居者が持ち易い食器、食事量に合わせた食器を用意したり、ミキサー、トロミ付け、糖尿病食など出来る限り対応している。また、季節感のある食事も提供できる様努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリー等、偏りのない食事提供に努め記録を取る事により皆で共有している。また、個人の疾患、咀嚼、嚥下能力に応じた食事・水分摂取の確保に努めている。また、熱中症対策として、経口補水液も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後には、個々の能力に合わせた口腔ケアや、定期的な義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔ケアの際や利用者の訴えに応じ口腔内や義歯の状態を観察し、適宜歯科受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレへの誘導を行っている。又、自立に向けて出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便管理を行っている。食物繊維の多い食材や牛乳などの乳製品を提供し、便秘予防と自然排便につながる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全の為、日中帯に入浴して頂いている。順番や入浴出来ない時の清拭など希望に沿った入浴が出来る様支援し、一人一人個別に入浴して頂いており、入浴時間等は目安として一人30分程度としているが、入居者一人一人の好みに応じゆっくりとくつろいで頂けるように配慮し、原則的に同性職員が介助を行っている。又、入浴剤を使用しながら入浴を楽しめる様に工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯のリハビリ体操など活動を促し生活リズムを整えている。時節にあった温度調整に努め安心して休息したり安眠できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱を用意している。薬剤情報を個々のファイルに綴じて、すぐに観覧できる様にしている。状態観察を行い、必要に応じて担当医へ相談し見直しを行っている。又、専門医を受診した際、薬の変更等があった場合、その都度担当医へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経験などを考慮してお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。週1回職員が入居者の要望を聞いて買い物の代行を行い、移動中は少し窓を開け3密を避けながら少人数での外出を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染拡大の為、外出を自粛しているが、以前は入所者全員が月に1回以上は外出出来る様に計画を立て、実行していた。希望される場所へ買い物へ出掛け、入所者の好きな物や必要な物を買われる。買い物へ行かれない方にはドライブ等へ出掛け気分転換が図れるよう配慮していた。コロナ禍ではあるが、時々には密にならない様にしながら、気分転換が図れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を持って頂く事になっているが、ほとんどの方が自己管理が出来ない為、家族と相談し欲しいものがある場合など、立て替え払いで対応している。職員との買い物時はレジを通して実際にお金を払って頂く等、経験して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やハガキなど要望があれば支援を行い、電話も希望に応じ、その都度やり取りが出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中庭に面した窓からは明るい日差しや、ホームの愛犬が遊ぶ様子を眺める事が出来、リビングや廊下に設けられたスペースでは利用者同士や職員と談話したり、思い思いに過ごせる様にしている。又、共用空間や各居室は、空調や音の配慮に心掛け、それぞれに落ち着いた環境作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員間でも利用者同士の関係を把握し、気の合った利用者同士が気軽に話が出来る様に席の配置を考慮している。また、テレビの前を広くし、集まり易い空間となる様にソファを配置している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や、入所者本人が慣れ親しんだ家具や火気を持ち込まない条件で仏壇、テレビ・冷蔵庫などの生活家電など持ち込みの規制もなく、心地よく過ごす事ができる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を把握し、張り紙や声掛けで混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、安全に暮らせる様支援している。		